

# 災害時の交通マネジメントの実施

災害時は、被災箇所の復旧作業を行うとともに、通行止め箇所からの迂回誘導、緊急車両等の優先通行、片側交互規制箇所の滞留車両のコントロールなど、交通マネジメントも実施することによって、地域経済への影響を早期に軽減していくことが必要です。こうした災害時の交通マネジメントを実施するために、災害発生時に有識者や道路管理者、警察等からなる検討会を迅速に開催できるよう各府県で体制構築しています。今後は、CCTVや交通ビッグデータを積極的に活用しながら、更に効果的なマネジメントを展開していきます。

## 渋滞状況の広報

令和4年8月豪雨 国道8号福井県



## 渋滞箇所のコントロール

CCTVによる渋滞長の確認



渋滞状況で上下の通行間隔を設定



令和4年8月の福井県での豪雨災害では、国道8号で片側交互通行規制を行った際に、交通集中による渋滞が規制箇所を先頭に発生しました。こうした渋滞は、上り線、下り線それぞれの方向の交通量が時間帯によって大きく異なるため、滞留長の上下バランスを確認しながら、優先して通行させる方向の時間間隔をコントロールする必要があります。

今回は、CCTV画像の目視による滞留長確認で対応しましたが、今後は画像解析による滞留長の自動計測や、方向別の通行時間の自動設定など、高度化の検討を進めます。